

# それでも人生にイエスという

日時 2019. 6月8日(土) 10:00~12:00

会場 **ほっぷの森ホール** 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階

●地下鉄広瀬通駅東2出口より徒歩約3分 ●JR仙台駅西口より徒歩約10分

参加費 **3,000円** ※当日受付にてお支払いください。



左はウィーン9区マリアンネガッセにある建物。ロゴセラピー創設者のヴィクトール・フランクフルが1945年から1997年まで、この2階に住んでいました。現在この中に、ウィーン・ヴィクトール・フランクフル・センターとフランクフル博物館があります。今回は、ウィーンのロゴセラピーの柱として活躍されている、このセンターの所長と研修責任者のお二人による、特別講演会です。



フランクフル・センター 所長  
研修・ワークショップ主宰  
ヨハナ・シェヒナー氏



フランクフル・センター 理事  
ロゴ公認講師  
ハイデマリー・チュルナー氏

■主催/ 仙台フランクフル文庫

■協力/ 特定非営利活動法人 ほっぷの森

お問い合わせ

仙台フランクフル文庫(ほっぷの森内) ☎090-3123-6363 (白木)

お申し込み

下記にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

**FAX.022-797-8802**

申込締切

2019年5月31日(金)

大変申し訳ありません。会場の関係で  
**申込み先着50名様**とさせていただきます。

お名前

ご連絡先

E-mailアドレス



# 「それでも人生にイエスという」

ロゴセラピーは、「夜と霧」の著者、V.E.フランクルによって創始された、「意味(ロゴス)」を中心として進められる心理療法です。ロゴセラピーでは、どのように生きることが意味のあることなのか、今いる状況での課題は何なのか、人生に意味を見出せないで悩んでいる人たちと一緒に、意味のある生き方を探し、癒しの可能性を求めます。「いかなる状況にあっても人生には意味がある、人生にイエスと言うことができる」と考えます。

1946年「死と愛」(原書)初版  
(原題「医師による魂の癒やし」)



## 仙台フランクル文庫とその背景

ナチスドイツ強制収容所の体験記「夜と霧」や「それでも人生にイエスと言う」などの著書で知られるオーストリアの精神科医ヴィクトール・フランクル(1905~1997)が、第2次大戦後、家族を亡くした絶望のなかで書いた本の初版が、ウィーンのフランクルセンターから「震災後の日本」へ贈られた。

1946年に出版された「医師による魂の癒やし」で、日本語訳は「死と愛」(霜山徳爾訳、みすず書房)として1957年に出ている。

ユダヤ教徒だったフランクルは、新婚の妻や両親と強制収容所に送られた。書きかけの論文原稿も没収され、四つ目の収容所で米軍に解放された。しかし再会を夢見て帰ったウィーンで、母はガス室で殺され妻は収容所で解放後まもなく死んだことを知る。

悲嘆のなか、失われた原稿を書き上げたのが、この本だ。収容所で、フランクルは小さな紙に本の構想をメモすることで生き抜いた。どんな時にも生きる意味はある、それは追い求めるものではなく、刻々と問われることに応えることの中にある、と説いたフランクルが、生きる意味や苦悩の意味、愛の意味について書いた、戦後の出発点。亡き妻へ捧げられている。



仙台フランクル文庫(ほっぶの森内)

フランクルが提唱したロゴセラピーを継ぐ1人で、ドイツに住む勝田茅生さんに2011年夏、この初版本が託された。フランクルセンターの理事たちからの手紙がっていた。

かつてオーストリアも非常につらい時期がありました。この作品は当時の大災害のなかから生まれ、世界中の人たちに多くの善いことをもたらしたのです。被災された方や日本の人たちに「それでも」の力が与えられるよう願っています)

勝田さんが仙台や東京でロゴセラピー入門セミナーを始めて10年。仙台のロゴゼミ受講生たちが、勝田さんから、この初版本を受け取った。障害者の就労支援をする特定非営利活動法人「ほっぶの森」の白木福次郎理事長らが、本を修復し、2012年5月に「仙台フランクル文庫」を設けて、展示を始めた。

フランクルは、この「医師による魂の癒やし」に、晩年まで手を入れた。加筆された最終版は、「人間とは何か」(山田邦男監訳、春秋社)という題で2011年に翻訳出版されている。

(2012年6月9日朝日新聞夕刊の記事に補足 編集委員・河原理子)

## 仙台フランクル文庫が、これまでに開催したロゴセラピー講演会

第1回講演



テーマ **生きる意味を見つけるために**

(2014年9月20日開催)

草野 智洋氏

- ・臨床心理士
- ・日本ロゴセラピスト協会認定 A級ロゴセラピスト
- ・静岡福祉大学社会福祉学部 専任講師
- ・静岡県ひきこもり支援センター スーパーヴァイザー

ロゴセラピーとは「他者を変化させるための技術」よりも「自分自身の生き方」に関わるものです。ロゴセラピーの世界観や人間観を自分のものにし、自分自身の人生を意味あるものにしていこうとするセラピストの態度が、クライアントの力になります。

第2回講演



テーマ **ロゴセラピーを基盤としたがん哲学外来**

(2015年6月13日開催)

山田 圭輔氏

- ・麻酔科専門医 ・ペインクリニック専門医
- ・ロゴセラピスト
- ・金沢大学医薬保健学域医学系 麻酔・集中治療医学 准教授
- ・金沢大学附属病院に「がん哲学外来」を開設

がん研究がどれだけ進んでも、人には最後に死ぬという大きな仕事が残る。がん医療には科学だけでなく、哲学的な考えを取り入れる必要がある。がん哲学外来とは、がん患者の心の苦痛(スピチュアルペイン)を軽減することを目的とする。死に向き合わずして、究極の心の安定は成立しない。

第3回講演



テーマ **フランクルの言葉**  
～「3.11からのことづて」によせて～

(2016年2月20日開催)

渡辺 祥子氏

- ・フリーアナウンサー ・朗読家
- ・日本ロゴセラピスト協会認定 ロゴセラピスト
- ・2014年8月にTOアックスより
- 「3.11からのことづて～災後を生きる人たちの言葉～」出版

東日本大震災の被災の地で懸命に生きる人々の姿は、まさに、「それでも人生にイエスと言う」姿です。この方々の生き方や、災後この地で繰り広げられた、世界中の人々との心の交流の中に、私はロゴセラピーの精神を見ました。これは、未来を生きる人々の教科書になる」と確信し、語り続けています。

第4回講演



テーマ **日本人から見たアウシュヴィッツ**

(2016年9月4日開催)

中谷 剛氏

- ・ポーランド在住
- ・アウシュヴィッツ博物館公認ガイド
- ・日本人訪問者にアウシュヴィッツの歴史を伝え続けている
- ・著書に「ホロコーストを次世代に伝える」など

国境を超えて多くの民族が共生・共存する地域が広がる中で人びとは不安を感じている。グローバル化に適応する精神とそれを養う教育が必要だが、アウシュヴィッツ見学はその機会のひとつになる。次世代の人びとが現在、そして未来の責任を果たすためにアウシュヴィッツがある。

第5回講演



テーマ **「夜と霧」ヴィクトール・フランクルをたどる**

(2017年5月20日開催)

河原 理子氏

- ・朝日新聞記者 ・ロゴセラピスト
- ・東京社会部が長く、編集委員、雑誌AERA副編集長、文化部長、甲府総局長などをとつめる

「夜と霧」は何度も読み返す本だと思います。自分の事も三人称で書いていたり時系列も行ったり来たりで、簡単にはわかりません。私はフランクルの足跡をたどってきました。四つの強制収容所を経て裏打ちされたロゴセラピーの思想や彼の人生、邦訳出版の経緯を知って読むと、さらに深く胸に迫ります。

第6回講演



テーマ **病の中で生きる意味を呼び覚ます関わり**  
～ロゴセラピーを手がかりに～

(2018年6月30日開催)

牧野 智恵氏

- ・石川県立看護大学(学長補佐)
- ・成人看護学領域(がん看護)教授
- ・日本ロゴセラピスト協会認定 A級ロゴセラピスト
- ・「フランクルを学ぶ人のために」世界思想社(第5章:執筆担当)

不治の病の中で人々は落胆し、生きる意味を見失う時があります。しかし、いかなる状況にあっても、その窮境に対してとる人間の態度によって、苦悩を人間的な業績へと変化させ、生きる意味を呼び覚ます力があるということ、看護実践例を手がかりに考える。

仙台フランクル文庫は  
右記の場所にあります。

特定非営利活動法人 ほっぶの森内 (〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階)

月～金 11:00～17:00

●ご見学希望の際は、下記電話 または メールアドレスまでお問い合わせください。  
電話 090-3123-6363 メールアドレス fshiroki@gmail.com